



でああなたの手元に届くwebマガジン

# おばこ管農情報



2021年2月 No.3  
JA秋田おばこ

# 豊作

## 目指して

## 基本技術の再確認を

どうして基本技術が大切なのか？

食味、収量、効率化など人によって目指す稲作は様々。だがしかし、稲自身が生長し実を实らせる工程は同じであって、やり方が違うだけです。目標に向かうにはまずは基本技術をしつかりと行っていないと目標は達成できません。

大きく分けて、「健苗育成」「土づくり」「生育診断」「適期刈り取り」です。例えば「健苗育成」では、

### 基本の木を大きく育てよう



優良種子、種籾消毒、床土、浸種、催芽、出芽、病害防除、追肥、育苗環境などとさらに細分化された基本技術があるのです。やり方と理論は様々あっても確実にこなしていかない良いもの作りには繋

がりません。昨年の反省点を洗い出し、今年の対策に役立てましょう。基本技術の太い幹があるから、大きな稲作の“木”になるのです。



## 根活しよっ

根の役割は、土中の養分や水分を吸収し、体を作り、異常気象下でも実りを下支えしてくれます。また、根が地下深くに張り込むことで倒伏にも強くなります。しかし、根の活力が低下すると、気象変動や倒伏に弱く、稲作が安定しません。昨

年の天候を思い返しても根の元気が無ければ良い品質にはつながりません。そこで、今年の稲作は根の活性を意識して作業に取り組んでください。まさに「根活」です。

管内の土壌分析結果からもケイ酸不足が明らか。異常気象に対応できる稲作実現のためにも継続的なケイ酸施用が欠かせません。全層施肥し土中にケイ酸があるようにすることで、根が

ケイ酸を求めてしっかりと伸びていきます。根が伸びると倒伏に強くなり、根がしっかりとケイ酸を吸収でき、暑さ寒さに耐えられる稲に仕上がります。

## 根活事例

### 雪解け停滞水の積極的排水で乾田化

明渠やサブソイラ施工し、乾田化を進め碎土率を上げよっ

### 深耕15cmを意識して耕起

土をしつかりとほぐして、養水分吸収できる根域を広げよっ

### 深水管理と中干し

適期に必ず行い、根をしつかり下に、下に伸ばそっ

### ケイ酸施用

登熟後半まで根を活かすために必ず必要だよっ

### 田面の均平化

去年のワラが多いから土としっかりと混ぜ込むように代かきをしよっ

### 溝切り

根が伸びると倒伏に強くなり、根がしっかりとケイ酸を吸収でき、暑さ寒さに耐えられる稲に仕上がります。

